

令和6年度 船原幼稚園教育活動に対する学校評価委員報告書

学校法人 さくら学園 船原幼稚園

1. 園の教育目標

- *生き生きとして明るく、思いやりのある子ども
- *友だちと一緒に楽しくあそぶことのできる子ども
- *あそびや生活の中で、自分で考え、行動し、試し、工夫してやろうとする子ども

2. 今年度の重点目標

- *子ども達の、なぜ?どうして?を大切にし、子どもと同じ目線に立って保育する。
- *未来に向かって育っている子どもの将来を見据えた『今』を大切にした保育
- *その子の良さや可能性を引きだす保育。
- *子ども達も保護者も安心して園生活を送ることができる幼稚園。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(評価点 A 十分に成果あり B 成果あり C 少し成果あり D 成果がない)

教師			学校評価委員	
評価項目	達成度	理由	達成度	理由
あそびや行事等の様々な体験が、年齢やクラスの実態に合ったもので子ども達にとって楽しく充実したものになっていたか	A	・ 子どもの発達や成長になるよう遊びを行ったり、一緒に考えたりしつつ、子どもが満足するまで遊べる時間を大切に。個々の発達段階に差があるため、活動の中でも一人ひとり援助が違うので大変だったが、発達状況を把握し、興味関心から遊びを進めていくようにしている。今後も発達段階に差がある子もいるので、その差を少しでもなくしていけるよう、おうちの方にも協力してもらい家庭でも出来ることは取り組んでもらいたい。 ・ 子どもの考えを大事にし、やってみたいということに対し、失敗する可能性も含めてチャレンジした。成功し、楽しかったことばかりではないが、失敗も含めて楽しむ姿は見られた。 ・ 今年度初めての遊びが多かったが異年齢で教えあう姿が見られ、来年はその経験が生き、もっと楽しめると感じる。	A	・ お泊り保育など行事を楽しむ姿が見られ、またやりたいたいという子どもの姿が見られた ・ クッキングなど園で経験したことを家に帰ってみようとする姿が見られるので、経験が活かされているのではないかと感じる ・ 異年齢で一緒に取り組む活動はとてもいいと思う。もっとおたよりなどで知れた方がいいと思う

子ども達の安全に気を配り安心して生活が送れるよう環境構成や言葉かけを行っていたか。	B	・ 危険な行動、間違った使い方をしている際は、その子だけでなく全体に声をかけるようにし、繰り返し伝えていった。また、遊びの中の危険は、一度遊びを中断し、子どもと一緒になぜ危険なことなのかを考え、子どもが納得、理解できるようにした。子どもたちが自分で考えて危険を回避ができるよう援助していきたい。 ・ 室内遊びでは机を端に寄せ広くスペースを確保し、園庭で遊ぶ時間はクラス単位でも複数の職員で要所要所に立ち、危険がないよう目を配った。職員の手が足りていないので、職員間で連携をとりながら事故等ないように気を付けたい。 ・ 何度言われても、同じことを繰り返す子が少なからずいるので、伝え方を工夫していく必要があったと感じる。 ・ 生活面では消毒、除菌に気を付けて生活を送った。また、室内・外ともに安全に注意した。しかし、うがいの徹底はむずかしかった。	B	・ 園で繰り返し行う中で、うがいなど生活習慣が身についた ・ 水筒を肩から掛けた後、体の正面に行かないように声を掛けてほしい ・ 門を開けて外へ出てしまう子がいるので、簡単に開かないような手立てがあったらよい
子ども達に寄り添った援助や年齢に応じて育ってほしい姿を伸ばすことができているか	B	・ 子ども一人ひとりの姿を見て、どんな援助が必要か、他の先生とも相談し合っている。相談することで、その子の問題を園全体で共有しながら保育が出来た。今後も一人一人と向き合う時間を大切にし、育ってほしい姿を見つめていくようにしたい。さらに育ってほしい姿を保護者の方とも共有し、園でも家庭でも援助していくことで、より良い成長へとつなげられるようにしたい。 ・ ねらいを持ち継続して行っていたことは、徐々に出来るようになることが多く、子どもの育ちを実感することが出来た。しかし、進級によってそれまでの指導が元に戻ってしまうことがあり得る。引き続きしっかりと3月で途切れないよう継続した指導が出来るようにしたい。 ・ 発達とともに友だち関係が広がりがけんかが増えたが、気の強い子、口が達者な子が多く、対応が大変だった。また、行動に問題がある子に対し、様々な工夫をしたが、成長があまり見られないと焦る気持ちが出てしまうので、穏やかに保育したい。	A	・ 先生が子どもの事をよく見てくれていて、前日の活動の様子を教えてくれるのが良い ・ 登園を渋ったときにその子の好きな事を聞き、思う存分遊ばせてくれ登園への意欲につながってくれた ・ 編み物など、年齢に合わせた活動が見られた

子どもの園での姿や育ちに関することを保護者に伝えたり、相談相手になったりして情報交換を図っていたか	B	・ 朝の登園や降園の時、保護者と直接話せる機会があまり作れず、手紙になってしまった。おたよりやシール帳でのコメントでも伝えるようにしているが、全員平等には伝えることが出来ていない。自分から積極的に保護者との情報交換がもっと出来るよう心掛けたい。 ・ 本当に伝えたいことが上手に伝えられたかがわからない。年上の保護者の方に遠慮してしまい「こうしてほしい」とはっきり伝えることが難しかった。先輩やフリーの職員の力を借りることも大切である。 ・ 保護者が求める情報が教師の予想を上回ることが多々あり、伝えるのが遅くなってしまうことがあった。園全体が明るく、話しやすい雰囲気を作っていけるよう今後も心掛けたい。	B	・ 感染症の人数を把握についてよい情報提供の方法はないのか ・ 通常保育以外の遠足など、どこで何をしているのか把握できるようにしたい ・ 教育実習生のいる日は知らせがあると嬉しい
--	----------	---	----------	---

4. 総括・特記事項

● 子どもの様子を職員間で話し、共通理解することが出来るよう努め、そこから得た情報を保育に生かしている。また、保護者の方とも情報交換を行い連携をとれるようにしていきたい。 ● 一人ひとりが責任を持って行事、活動に取り組めるようにしていきたい。 ● 四季の行事等、様々なアイデアを出し、それに関連付けての言葉掛けや行動が出来た。各行事や活動がマンネリ化しないよう工夫を凝らしている。 ● 人手が足りず、園庭の草取りや園舎の清掃活動など、保護者の方にも参加してもらえるような活動があればと考慮しているものの、機会が難しい。 ● 今年度の活動の際は、一学年だけでなく、異年齢児との活動を多く取り入れるように心掛けた。年長児はお世話をしてあげようという優しい心を持つ子が増え、小さい子ども子どもが声を掛けた方が素直に聞くこともあり、良いかわりが出来たと感じる。
--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教師の資質向上について	● 個々では、保育誌や保育の専門書を読んだり見たりして、保育の参考にしたり、新しい活動のアイデアを考えたりする。 ● 常に教員同士で話し合ったり、相談したりすることで問題を解決したり園児理解を深める。 ● 日々や週、月、学期で保育を振り返り、反省点を見つけ次に生かすように努力する。 ● 研修や講演会に積極的に参加し新しい知識を吸収し、教員全体で共有していく。 ● 美しい絵画や音楽に触れることで感性を磨く努力をする。
保護者への対応について	● 保護者との信頼関係を築けるように、子どもの様子を些細なことでも伝え、一緒に子どもの成長を喜び合い、連携を図る。 ● 流行している感染症や欠席状況など公開できることは、正確に情報を発信し、保護者の不安を軽減する。 ● 個々の子どもについて教員同士で連携を取り合い、担任だけでなく教員全体で子どもを見ていることを示し安心してもらう。
地域とのかかわりについて	● 地域の中学生の職場体験の受け入れ、老人施設への訪問、小学校の見学等、地域の施設との交流を広げる。 ● 未就園児の会を開き園庭の開放をしたり、同じ年ごろの子を持つ親同士のコミュニケーションを持つ場として提供する。

6. 学校関係者評価委員からのコメント

- ・誕生会の劇は先生たちが工夫を凝らしてくれ、とても楽しんでいる。
- ・夏祭りや行事の際の伝達事項など担当の先生がいるとスムーズになると感じる。また、父母の会の事内容で事前にわかるものは知らせてほしい。
- ・メール機能をもっと活用し、情報を発信してほしい。
- ・園行事に保護者が付き添うことで人の目が多くなるので、安心感が増すと思う。お手伝いとして参加したいという保護者もいるので声を掛けてもいいのではないかな。
- ・今後も先生同士が互いに声を掛け合い、間違いや失敗をフォローし合いながらより良い関係、保育を行ってほしい。

評価年月日 令和6年 3月 10日

評価者